



『よいところみつけ名人になろう』

校長 岡部 良美

入学・進級から1か月が経ちました。子供たちは新しい学年・学級の中で、期待と夢をふくらませて、元気よく活動をしています。朝登校してくる1年生一人ひとりを6年生みんなと心配そうな6年生。しかしAちゃんが来ると6年生は安心の表情。「おはようございます」という元気なあいさつとともに6年生の温かなお世話で学校生活の1日がスタートします。

4月6日の始業式の日（1年生には4月17日）、私が話をした大東小の子供たちの1年間のめあては、『よいところみつけ名人』になろうです。この意味は「自分のよいところ」も「友達のよいところ」も見付ける名人のことです。一日必ず1つ、自分のよいところ、できたこと、頑張ったこと、そして、友達のよいところ、頑張っているところ、やさしくしている・してくれたところなどを見付けましょうと話しました。

大東小では7月と12月に子供たちの授業評価・意識調査を学校独自で行っています。その中で自己肯定感にかかわる質問項目があります。調査結果(肯定的評価の数値)です。

- 先生から認められていると思いますか。(7月70%、12月74%)
- 友達から認められていると思いますか。(7月73%、12月73%)
- 家の人に認められていると思いますか。(7月83%、12月86%)
- 自分に自信がありますか。(7月71%、12月71%) ※目標は100%です。

「自分で自分のよいところが分かる」、「友達によいところを認めてもらう」ことは、子供一人ひとりの自信に繋がると 생각합니다。それに伴って、友達など他を受け止め、受け入れる、対話・協力する行動にも繋がると考えます。大東小は700名を超える子供たちが集う学校です。お互いのよさが分かっている、自分のことが分かってもらえると思えば、安心して学校生活が送れます。学校生活の中で友達と仲良くすることはもちろん、安心感の中で暮らせれば、学習においても間違ふことを恥ずかしがらず、一生懸命考え判断し表現するなど、個性と能力を發揮できる環境になると確信しています。そして、これからのグローバル化の時代にも、主体的・対話的に行動できる大人に成長することでしょう。

私は、いつもペンを首に提げています。子供たちと共に『いいところみつけペン』と名付けました。4月には最高学年の6年生の行動、高学年に仲間入りした5年生の自覚、遠足で見られた2・3・4年生の集団行動や公衆道徳、1年生の月曜朝会の整列の姿勢など、多くのよいところを見付けることができました。これからも『いいところみつけペン』を走らせて、子供たちのよいところを記していきたいと思ひます。

○【校舎等全面改築工事の情報】

新体育館の基礎工事を行っています。(1月に使用開始予定です。)

○【主な給食使用食材の産地についてのお知らせ 4月】

お米(青森県産 まっしぐら)牛乳(北海道、青森、岩手、秋田、宮城、群馬、千葉)
大根(千葉)小松菜(埼玉)玉ねぎ(北海道)じゃがいも(鹿児島)にんじん(北海道、徳島)
長ねぎ(群馬、埼玉)きゅうり(群馬・千葉)さつまいも(千葉)キャベツ(愛知、千葉)
りんご(青森)清美オレンジ(愛媛)豚肉(青森)鶏肉(岩手)かつお削り節(鹿児島)